

I 調査概要

1. 調査の目的

「かわさき市民アンケート」は、昭和 50 年度から毎年 1 回 1,500 人を対象として行っていた「市民意識実態調査」を、より多くのテーマ、より多くの対象に調査するため、調査回数を年 2 回、各回 3,000 人の市民を対象にした調査に拡充し、名称を変更して平成 18 年度から実施することとしたものである。

昭和 50 年度から継続的に行ってきた市民の定住状況、生活環境の評価、市政に対する評価と要望等に加えて、市民に関するいくつかのテーマについて、市民の生活意識や行政に対する意識を調査し、市政運営や政策立案の参考資料とすることを目的として実施した。

今年度は、調査対象を満 18 歳以上の男女に引き下げるとともに、第 1 回調査は、調査方法をインターネットモニター調査として実施した。

2. 調査の方法

- | | |
|------------|--|
| (1) 調査の地域 | 川崎市全域 |
| (2) 調査の対象者 | 川崎市在住の満 18 歳以上の男女個人 |
| (3) 標本の抽出 | 第 1 回 インターネットモニター登録者から事前調査により抽出
第 2 回 住民基本台帳からの層化二段無作為抽出 |
| (4) 標本数 | 第 1 回 1,500 標本回収まで実施
第 2 回 3,000 標本（平成 28 年 10 月抽出） |
| (5) 調査方法 | 第 1 回 インターネット調査
第 2 回 郵送法（郵便配布・郵送回収・はがき督促を 1 回）
※インターネット回答との併用 |
| (6) 調査期間 | 第 1 回 平成 28 年 8 月 31 日（水）～ 9 月 5 日（月）
第 2 回 平成 28 年 11 月 7 日（月）～ 11 月 28 日（月） |
| (7) 調査委託機関 | 株式会社 マーケティングリサーチサービス |

3. 調査項目

◎第 1 回

<調査テーマ>	<問番号>
(1) 町内会・自治会の活性化について	(Q1～Q9)
(2) 女性活躍推進及び働き方の意識について	(Q10～Q18)

◎第 2 回

<調査テーマ>	<問番号>
(1) 定住状況について	(問 1～問 4)
(2) 生活環境の評価について	(問 5～問 6)
(3) 関心ごとと行動範囲について	(問 7～問 8)
(4) 市政に対する評価と要望について	(問 9～問 10)
(5) 市民の防災意識について	(問 11～問 13)
(6) 川崎市の都市交通について	(問 14～問 22)
(7) 介護予防の取組について	(問 23)
(8) ボランティアについて	(問 24～問 25)

4. 回収状況

	第 1 回	第 2 回
(1) 標本数	1,500 標本回収まで	3,000 標本
(2) 有効回収数	1,500	1,351
(3) 有効回収率		45.0%

5. 報告書の見方

- (1) 集計は、小数点第 2 位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が 100.0%にならない場合がある。
- (2) 基数となるべき実数 (n) は、設問に対する回答者数である。
- (3) 回答の比率 (%) は、その質問の回答者数を基数として算出している。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると 100.0%を超えることがある。
- (4) 本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。
- (5) 回答数が 30 未満と小さいものについては、比率が動きやすく分析には適さないため、参考として示すにとどめる。

6. 標本誤差

※標本誤差は、無作為抽出を実施した第 2 回調査にのみ適用される。

標本誤差は次式で得られ、①比率算出の基数 (n)、②回答の比率 (p) によって誤差幅が異なる。

$$\text{標本誤差} = \pm 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N=母集団数 (川崎市の 18 歳以上人口)
n=比率算出の基数 (回答者数)
p=回答の比率 (%)

今回の調査結果の標本誤差は下記ようになる。

回答比率 (p) 基数 (n)	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
1,400	±2.27%	±3.02%	±3.46%	±3.70%	±3.78%
1,351	±2.31%	±3.08%	±3.52%	±3.77%	±3.85%
1,300	±2.35%	±3.14%	±3.59%	±3.84%	±3.92%
1,000	±2.68%	±3.58%	±4.10%	±4.38%	±4.47%
500	±3.79%	±5.06%	±5.80%	±6.20%	±6.32%
300	±4.90%	±6.53%	±7.48%	±8.00%	±8.16%

※上表は $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ として算出している。なお、この表の計算式の信頼度は 95%である。

注／この表の見方

標本誤差とは、今回 (第 2 回調査) のように全体 (母集団) の中から一部を抽出して行う標本調査では、全体を対象に行った調査と比べ、調査結果に差が生じることがあり、その誤差のことをいう。この誤差は、標本の抽出方法や標本数によって異なるが、その誤差を数学的に計算することが可能である。その計算式を今回の調査に当てはめて算出したのが、上記の表である。見方としては、例えば、「ある設問の回答者数が 1,400 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 60%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも ±3.70%以内 (56.30~63.70%) である」とみることができる。